【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第４部門第１区分
【発行日】平成22年5月6日(2010.5.6)

【公開番号】特開2010-1734(P2010-1734A)
【公開日】平成22年1月7日(2010.1.7)
【年通号数】公開・登録公報2010-001
【出願番号】特願2009-193418(P2009-193418)
【国際特許分類】
Ｅ０５Ｆ　1/10　(2006.01)
Ｅ０５Ｆ　5/00　(2006.01)
Ｅ０５Ｆ　5/02　(2006.01)
Ｅ０５Ｆ　7/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｅ０５Ｆ　1/10
Ｅ０５Ｆ　5/00　Ａ
Ｅ０５Ｆ　5/02　Ａ
Ｅ０５Ｆ　5/00　Ｃ
Ｅ０５Ｆ　7/00　Ｂ

【手続補正書】
【提出日】平成22年3月18日(2010.3.18)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
枢軸Oを軸に回転するプレートWに設けられる回転支軸Idの周りを回転自在に軸支され、上記回転支軸Idの周りの回転を解除可能な係止手段によって止められ、上記プレートWに固定されるドアDを備え、上記ドアＤの所定の回転範囲内において係止手段を解除して上記ドアDが上記回転支軸Idを軸に回転方向と逆方向に回転可能な状態になることを特徴とする回転ドア。
【請求項２】
上記回転支軸Idの周りにドアＤの幅方向の中間部を回転自在に軸支し、上記プレートWに設けられる回転支軸Iaの周りに回転自在に軸支されるアームAの先端部に装着される車輪Bが、上記枢軸Oに近い方のドアDの側面に施された窪みＫｄに嵌り込み、上記窪みＫｄの対面し上記枢軸Oを中心とする固定円盤の外縁部Ｋに沿って円運動することによって、上記窪みＫｄから排出されないようにし、或いは上車輪Ｂが上記窪みＫｄを押圧しながら上記窪みＫｄから排出されないようにして上記ドアＤを上記プレートＷに固定し、上記所定の回転範囲内において上記車輪Ｂが上記窪みＫｄから排出可能な状態にして、上記車輪Ｂが上記窪みＫｄから排出されたとき上記ドアDが上記回転支軸Idを軸に回転方向と逆方向に回転可能な状態になる請求項１に記載する回転ドア。
【請求項３】
上記窪みＫｄから排出された上記車輪Ｂを収容する凹みＫＫを上記固定円盤の外縁部Ｋに設けて、上記所定の回転範囲内において上記枢軸Oから遠い方のドアDの側面に外力が作用したとき、上記車輪Ｂが上記窪みＫｄから排出されて上記凹みＫＫに退避して上記ドアDが上記回転支軸Idを軸に回転方向と逆方向に回転可能になると同時に、上記車輪Ｂの上記枢軸Oを中心とする円運動が上記凹みＫＫの末端ＫＫＫによって阻止されることによって

、上記枢軸Oを軸に回転する上記プレートWが停止することを特徴とする請求項２に記載する回転ドア。
【請求項４】
上記ドアＤを両側から挟む当りＧｒ、Ｇｌによって上記ドアＤを上記プレートＷに固定し、上記所定の回転範囲内において、上記当たりＧｒ、Ｇｌを外して上記ドアＤを上記プレートＷに退避可能に固定する請求項１に記載する回転ドア。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１８０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１８０】

ドアが回転する範囲イではドアDは回転軸Idとドアを両側から挟む当りGr、Glの3つでプレートWに固定されるが、ドアが閉まる直前の範囲ロではドアを両側から挟む当りGr、Glのうち、ドアの回転方向と逆方向の回転を止める当りGrが外れるようにして、ドアDは回転軸Idとドアの回転方向の回転を止める当りGlの２つでプレートWに退避可能な状態で固定される。ドアが閉まる直前の範囲ロで人の体を挟んだ場合、ドアが回転軸Idを中心にしてドアの回転方向と逆方向に回転して、人の体を挟んだ状態から開放する。ドアの回転方向と逆方向の回転を止める当りGrが外れるようにする方法は、当りGrがドアの回転軸を中心に円運動することから、例えばその円軌道にガイドをつけることで、ドアが閉まる直前の範囲ロにおいてのみ当りGrが外れるように出来る。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１８１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１８１】
この「プレートWに退避可能な状態で固定される状態」がドアが閉まる直前の僅かな範囲ロ内だけに限られるならば、ドアに動慣性がついていて、ドアが回転軸Idを中心にして自然にプレートWと相対的にドアの回転方向と逆方向に回転することはないが、ドアが閉まる直前の僅かな範囲ロ内でもドアは空気抵抗やその他の摩擦抵抗を受けて、ドアが回転軸Idを中心にして自然にプレートWと相対的にドアの回転方向と逆方向に回転する傾向にあるので、ドアが閉まる直前に重量物WWをドアの回転の中心Oに近づけることによって、ドアの回転速度を高めて、ドアが回転軸Idを中心にしてドアの回転方向に加速して回転するようにして、プレートWと相対的にドアの回転方向に反対方向の回転を防ぐ。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１９４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１９４】
車輪Bが窪みKdから離れたとき「ドアの回転軸Idを中心とする回転」を拘束しないので、ドアに人が挟まれることによってドアは退避方向に回転する。図２３の回転ドアは車輪Bが窪みＫｄから排出される際、上記窪みKdの延長された内側滑走面Kddを滑走しながら、ドアを閉まる直前で閉める方向に回転させるもので、「ドアの回転の拘束」が解除された状態でも、回転ドアが風の影響などを受けて開かないようにするものである。